

第18回 東洋療法推進大会 in 神奈川 参加報告



公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会

第18回

東洋療法推進大会

in 神奈川

大会テーマ

令和元年 未病治宣言

～新たな時代へ Let's go Sailing!～

令和元年
10月20日〈日〉12:00
～21日〈月〉13:00
会場 新横浜プリンスホテル

主催：公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会
共催：一般社団法人神奈川県鍼灸マッサージ師会

後援：厚生労働省、神奈川県、横浜市、日本医師会、日本栄養士会、東洋療法研修試験財団、国際医療技術財団、AMDA、あはき等法推進協議会、全日本鍼灸学会、日本東洋医学系物理療法学会、神奈川県医師会、横浜市医師会、神奈川県看護協会、神奈川県栄養士会、神奈川県体育協会、神奈川県鍼灸師会、神奈川県柔道整復師会、神奈川県衛生学園専門学校、呉竹鍼灸柔整専門学校、湘南医療福祉専門学校、かながわ健康財団、神奈川県レクリエーション協会、神奈川県社会福祉協議会、神奈川県視覚障害者福祉協会、神奈川県老人クラブ連合会、神奈川新聞社、読売新聞横浜支局、(株)テレビ神奈川

神奈川県新横浜駅から徒歩 2 分の新横浜プリンスホテルにて開催された。当日は関東近県はもとより、日本全国各地から業友諸氏の皆様が参集され、講演会分科会で学び情報を集め、懇親会では旧交を温め、大変盛大な会でありました。

大会テーマ

令和元年 未病治宣言 新たな時代へ Let's go Sailing!

プログラム

2019 年 10 月 20 日(日)

第1部 開会式

第2部 特別講演「未病と栄養学～医食同源の実践が世界を救う～」

神奈川県立保健福祉大学学長 中村丁次先生

第3部 1 スポーツ災害対策委員会「災害とスキンタッチ～発災急性期から慢性期までエブリタイム～」

2 保険委員会① 特別講演「東洋医学の将来性」～政治家二階俊博論

政治ジャーナリスト森田実先生

第4部 3 神奈川県師会 「杉山検校和一と江の島」

4 保険委員会②シンポジウム「地域に貢献し生き残れる施術所を目指して」

2019 年 10 月 21 日(月)

第5部 5 学術委員会「臨床報告・臨床研究発表」

6 法制委員会「あはき広告ガイドラインの展望」

第6部 7 視覚障害委員会「視覚障害あはき師の施術所経営と臨床」

8 介護委員会「地域包括ケアで鍼灸マッサージ師に期待できる役割」

第7部 分科会報告/閉会式

特別講演「未病と栄養学～医食同源の実践が世界を救う～」

神奈川県立保健福祉大学学長 中村丁次先生

人は食べないと死に、食品選択が偏ると病気になる。この事を科学的に解明したのが18世紀ヨーロッパに誕生した栄養学である。栄養学は生命の営みにはエネルギーと栄養が必要でありことを明らかにし、200年かけて約40種類の栄養素を発見し、その機能と食品含有量を明らかにした。我が国が栄養学を導入したのが150年前の明治維新の時であり、その後栄養学は富国生命の国策に活用され戦前戦後の主食偏重の食習慣と食料不足による低栄養さらには高度経済成長後の食事の欧米化による過剰栄養の問題を解決してきた。

我が国には陰陽五行説を基盤にした東洋医学の中で食養生が長きにわたり国民の健康を支え、中国最古の医学書「黄帝内経」にはじめて「未病」という言葉が登場した。一般には未病とは、未だ病気に至らない状態、つまり自覚症状はないが検査では異常がある状態や自覚症状はあるが検査では異常がない状態など、健康と病気の間、いわばグレーゾーンと考えられている。

近年、未病には従来の医学モデルのように健康と病気を区別するのではなく連続的に変化するグラデーション状態であるとする概念が提唱され、行政政策にも取り入れられている。人間の心身の状態は多様で健康だとしても全ての臓器が完全の正常な者は存在せず、逆にどのように病気や障害があったとしても、正常な臓器や機能は残存し、傷病者でも健康的に生きることができる。つまり未病には健康で自立した生活ができているながら、病気に近づきつつある状態も存在することになる。従って未病対策とは、現時点がどのような状態だとしても、「より健康になろう、より健康に生きよう」とする人々を支援することである。疾病の保健（一次予防）、医療（二次予防）、福祉（三次予防）を包括した予防策だといえる。

栄養とは整体が飲食物から生命に必須な成分を取り入れ生命活動を営む現象を言い、その主成分を栄養素と定義している。人体の構成と活動の成分が栄養素であることから、栄養は心身の健康を維持する基盤であり、未病対策には最も重要な項目である。全ての栄養素には欠乏症と過剰症があり、病的状態と健康状態の中間に潜在的な欠乏症と過剰症が存在する。例えば脚気は検査値が異常を示して臨床症状が出現した病気の状態であるが、ビタミンB1の潜在的欠乏状態は検査値は低値を示すが異常値ではなく、病気による臨床症状ではなく、多様な不定愁訴が出現している。栄養の潜在的過剰状態でも同様な事が起こる。病気として肥満症、糖尿病、高血圧、脂質異常症等があり、検査値が高い値を示すが異常値ではない病気と診断できない状態がある。このような潜在的栄養欠乏状態や過剰状態を栄養性疾患における未病だと考えられる。

近年の栄養学の進歩は栄養障害が保健、医療、福祉のみならず、貧困、教育、ジェン

ダー、労働、成長、不平等、そして気候変動など多様な領域に関係していることが明らかにした。

例えば栄養改善は体力精神力を向上させ労働力を上昇させ収入や賃金を増やし貧困を削減することができる。

栄養欠乏症や肥満・非感染性慢性疾患（生活習慣病）の予防は医療費や介護費を減少させ、胎児や幼児の栄養改善は学習能力を向上させ社会のエンパワーメントを高める。栄養改善により国民総生産（GNP）を8～11%上昇させる。食品の生産、加工、配分、選択、調理の工夫により地球環境に与える負荷も軽減させる。

栄養は単に生命を営み、命を保証し健康を増進するだけでなく、人間の営みのあるゆる領域の基盤になる。今後近代科学としての栄養学と精神、文化、さらに環境との包括概念を有した東洋医学との連携が期待される。

スポーツ災害対策委員会

「災害とスキンタッチ～発災急性期から慢性期までエブリタイム～」

いつ起こるか予想のつかない災害に対し、日頃からなにを準備したらいいのか、資料？知識？心づもり？などをそれぞれの立場から検証する。熊本地震、北海道東部胆振地震で実際に現地での活動を行った経験から学んだ事を生かしていく仮設住宅での活動が地域包括ケアシステムでの鍼灸師・マッサージ師の活動にどう繋げていけるのかが課題である

神奈川県師会 「杉山検校和一と江の島」

杉山検校和一は、慶長15年（1610年）、伊勢の国藤堂家家臣杉山重政の嗣子として生まれ、幼少期の流行病に罹り視力を失った。その後、鍼術を志し、山瀬琢一に入門するが破門され、江の島弁財天（古来盲人の守護神として崇められていた）に参籠し、断食修行満願の日に福石につまづき、この時に管鍼法と松葉鍼を考案したとされている。その後京都へ赴き、入江豊明の元で修行を重ね、61歳で検校となり、鍼治学問所を興す。76歳になり将軍徳川綱吉に召され鍼治療を行い病を治したことから、依頼将軍家に登用され、元禄5年に初代関東総検校に任じられる。のちに「杉山流鍼治導引稽古所」を開き、視覚障害者の生業の道を開いた。この功績により、将軍から本所一つ目に3000坪の土地を賜った逸話は有名である。

保険委員会②シンポジウム

「地域に貢献し生き残れる施術所を目指して」

あん摩マッサージ師

- ・地域で市民権を得るためには
- ・地域の医師との連携を深めるためには
- ・今後の課題について

鍼灸

- ・地域の医師との連携により、同意書拒否を回避した例について

学術委員会「臨床報告・臨床研究発表」

本年 5 月に WHO 総会にて ICD-11(国際疾病分類)の中に正式に伝統医学が承認された。日本伝統医学の歴史は長く、独自に継承発展し、多くの実績がある。統合医療の視点から、鍼灸マッサージ師はしっかりとエビデンスに基づいた病態把握を行い医師との信頼関係・連携を強化できるチャンスである。そのためにも日々の臨床実績を報告することで、臨床の質を向上させ、国民の医療保健に寄与していくべきである。

法制委員会「あはき広告ガイドラインの展望」

厚労省医政局医事課 医事専門官 松田芳和氏を招き、すでに 7 回行われている「あん摩マッサージ師、はり師、きゅう師及び柔道整復師等の広告に関する検討会」について、これまでの議論を踏まえた概要と今後の展望について。

視覚障害委員会

「視覚障害あはき師の施術所経営と臨床」

視覚に障害があるために鍼灸マッサージ療養費の請求を諦めている人も、パソコンの読み上げソフト使用である程度の所までレセプト作成は可能である。またこの様なソフトを利用せず代筆依頼する場合でもレセプト全般の書式を理解している必要はある。全鍼師会保険委員会資格障害委員からソフト開発への取り組みと施術所経営について発表された。

介護委員会

「地域包括ケアで鍼灸マッサージ師に期待できる役割」

地域包括ケアシステムとは、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供される体制の事である。今後急速に進む少子高齢化社会をいかに豊かで幸福に暮らすことができるか。

疾病を抱えても住み慣れた生活の場で療養し自分らしい生活をつづけられる事が望まれている。

そのために医療介護福祉の連携が重要であり、包括的かつ持続的な支援が必要である。鍼灸マッサージ師が地域の重要なインフラとなるためには、どのような知識と技術が必要とされ、地域から何を期待されているのかについて厚労省老健局担当官を迎えて講義された。